課題番号７

業務用トマトの安定生産

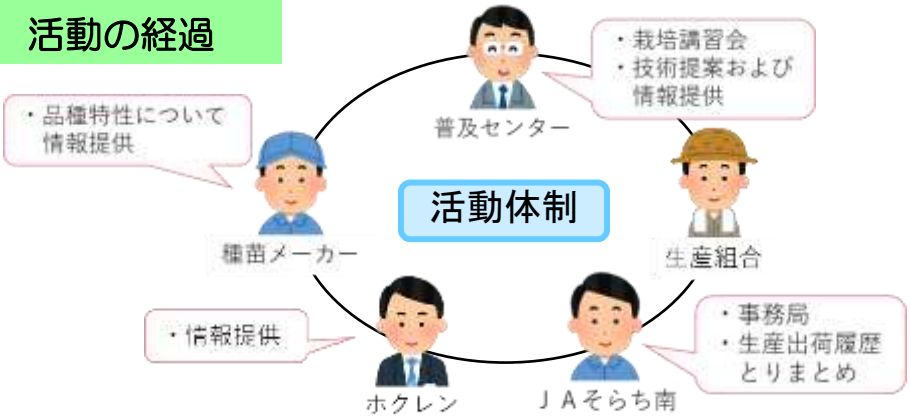
～栽培管理の改善、適期防除による生産性の向上～

対象：JAそらち南スライストマト組合（15戸）

１　活動の背景

当地域で栽培している業務用トマトは、Ｒ５年まで海外産品種を栽培していたが、病害虫や高温による果実への被害が散見された。そのため、栽培のしやすさを重視し、Ｒ６年から生食用品種に変更し、業務用途として出荷している。また、高温による落花が目立っており、着果率の低下が問題となっている。引き続き、新規導入品種の収量の確保を目的として、組合平均収量 8.6t/10a を目標に栽培支援を行った。

２　活動の経過



①　栽培講習会（３月）

- 病害虫対策、薬剤一覧表・防除暦例を配布
- 生理障害対策、品種特性
- 着果率向上のためのホルモン処理
- 摘果・摘花効果検証試験の結果報告

栽培技術の向上を図った

②　病害虫発生抑制に向けた定期ほ場巡回（４月～10月）

関係機関との巡回を計9回実施

- 栽培状況の確認・助言（肥培管理方法、遮光資材の利用、通気性の確保）
- 病害虫発生状況の確認
- 各種病害虫のFAX情報を発信、適期防除の促進

写真１　ほ場巡回の様子

③　摘果・摘花効果検証試験（５月～９月）

- 摘果・摘花実施による生育および収量に与える効果を検証

３　成果の具体的内容

①　栽培管理の改善

- 全段ホルモン処理実施者　R6 1戸 ➡ R7 3戸
- 一部ホルモン処理実施者　R7 6戸

他作物の管理作業もあり全段処理は難しいけど、可能な限りホルモン処理を行っている

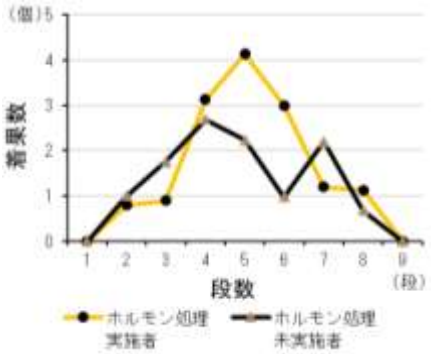


図1　段別着果数の推移

②　病害虫発生抑制

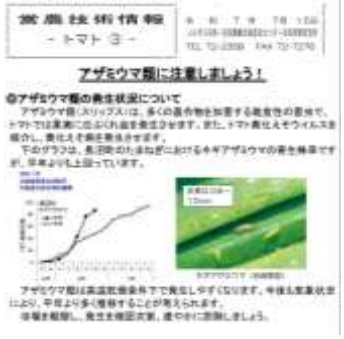


図2　防除暦例（左）
図3　FAX情報(アザミウマ類)(右)

農業者が実践！

病害虫発生状況に応じた薬剤選択
ローテーション防除
ハウス内の通気性確保

主な病害虫（灰色かび病、アザミウマ）による被害発生率は約5%に抑制

③　摘果・摘花の必要性を確認

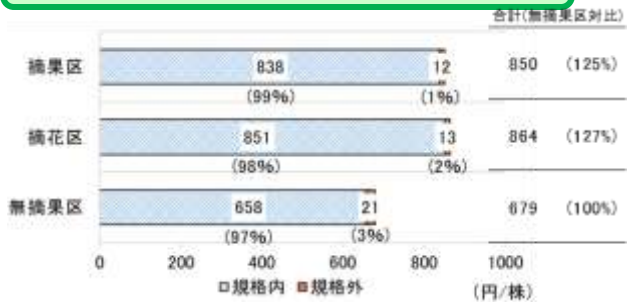


図4　1株当たり推計販売金額

摘果・摘花を行うことで、規格内収量が増加し、販売金額の増加につながることがわかった

具体的推進事項：新規導入品種の生産性の向上

- 規格内収量

現況（組合平均）8.2t/10a ➡ R7目標 8.6t/10a ➡ R7実績 7.7t/10a

酷暑により落花が目立ったが、病害虫被害等によるロスは抑制できた！

・今年度の組合平均収量は目標未到達だが、安定してきている

４　今後の課題と対応

- 一部栽培開始５年以内の生産者（３戸）では、組合平均収量(R7:7.7t/10a)を下回っている(R7:4.9t/10a)。
- 栽培年数が浅い生産者を対象に生産の安定化に向けて栽培支援を行い、組合平均収量の底上げを新たな目標として課題を推進する。